

令和6年度

全国学力・学習状況調査 結果分析

《小学校・中学校》

令和6年10月

松阪市教育委員会

目 次

1 調査の概要	・・・1
2 調査結果	・・・2
(1) 教科に関する調査	
① 小学校	
② 中学校	
(2) 質問調査	・・・7
I <児童生徒質問調査>	
① 基本的生活習慣等	
② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	
③ 学習習慣、学習環境等	
④ 地域や社会に関わる活動の状況等	
⑤ ICTを活用した学習状況	
⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	
⑦ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	
⑧ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語、算数・数学、理科）	
II <学校質問調査>	・・・11
① 校内体制及び学校間連携等	
② 家庭や地域との連携等	
3 成果につながったと考えられる松阪市の取組	・・・12
4 調査結果の分析	
児童生徒質問調査と学校質問調査、教科に関する調査に係る分析	
(1) 主体的・対話的で深い学びの創造	・・・13
① 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	
② ICTを活用した学習状況	
(2) カリキュラム・マネジメントの確立	・・・21
① 児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する状況	
② 学校・家庭・地域の一体的な取組に関する状況	
5 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の取組	・・・26
(1) 松阪市教育委員会の施策の充実	
(2) 学校の実践の焦点化	

＊本冊子において、児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答の数値は、肯定的な回答の割合を示す。

用語説明

語句	説明
平均正答率	市内小・中学校の平均正答数を百分率で表示。国語、算数・数学の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。
肯定的な回答	質問調査において、例えば「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の選択肢がある場合、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を示す。

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

松阪市教育委員会

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の調査結果や本市における児童生徒の学力の定着状況、生活習慣、学習状況等の分析結果、本市の学力向上の取組、及び今後の取組を以下のとおりまとめる。

I 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における個々の児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 児童生徒一人一人が自らの学習状況を把握し、学習改善や学習意欲の向上につなげる。

(2) 調査問題の在り方

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃は、グローバル化や人工知能(AI)等の技術革新が急速に進み、予測困難な時代が予想される。子どもたちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、仲間とともによりよい社会や人生を切り拓く力が求められる。この状況を踏まえ、平成29年3月31日に幼稚園・小学校・中学校の学習指導要領等の改訂告示が公示された。

学習指導要領では、教科等の目標や内容について、以下の三つの柱に基づいて再整理されている。

- 生きて働く「知識及び技能」
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

この学習指導要領では、未来を切り拓いていくための資質・能力は、上記の三つの柱が相互に関連し合いながら、育成されるという考え方に立っている。このようなことから、平成31年度(令和元年度)以降の調査では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識・活用を一体的に問うこととなった。

調査問題には、未来を切り拓いていくために、子どもたちに身に付けさせたい力が、具体的に示されている。調査問題自体が、学校や児童生徒に対して、土台となる基盤的な事項を具体的に示していることを踏まえ、実際の学習指導要領の下での授業改善、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上に関して役立てることが重要であるとしている。

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

ア 小学校においては国語・算数、中学校においては国語・数学の2教科について、調査を実施する。

イ 出題範囲は、小学校においては小学校第5学年、中学校においては中学校第2学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりである。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

(イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

ウ 調査問題では、上記(ア)と(イ)を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

② 質問調査

ア 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査実施日 令和6年4月18日(木)

(5) 調査の対象

種 目	学校名	対象学年及び実施児童生徒数
小学校調査	36校	小学校第6学年 1,302人
中学校調査	11校	中学校第3学年 1,233人

2 調査結果

(1) 教科に関する調査

① 小学校

<令和6年度 各教科の平均正答率>

	国語	算数	2教科平均
松阪市	69.8	66.0	67.9
三重県	67.1	62.3	64.7
全国	67.7	63.4	65.6
全国との差	+2.1	+2.6	+2.3

<主な成果○と課題●>

- 国語科では、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることが概ねできている。
- 算数科では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることが概ねできている。
- 国語科では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。
- 算数科では、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。

② 中学校

<令和6年度 各教科の平均正答率>

	国語	数学	2教科平均
松阪市	59.1	55.0	57.1
三重県	57.0	52.7	54.9
全国	58.1	52.5	55.3
全国との差	+1.0	+2.5	+1.8

<主な成果○と課題●>

- 国語科では、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることが概ねできている。
- 数学科では、与えられたデータから最頻値を求めることが概ねできている。
- 国語科では、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに、課題がある。
- 数学科では、筋道を立てて考え、証明することに課題がある。

○小学校

国語 2 ニ【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く

◇ 出題の趣旨

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる。

◇学習指導要領の内容 「第5学年及び第6学年」 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

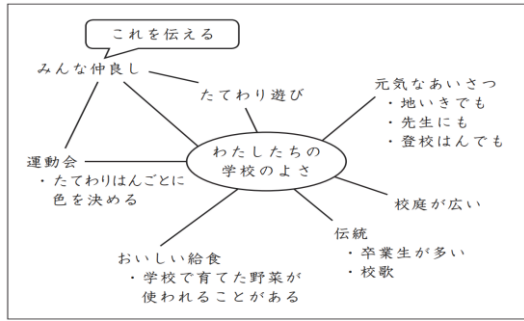
ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



【高山さんのメモ】



うでえんをメはこ校一
。、の決モ、との 高山
あでメめを学によさ さん
とすモま書校しさを さん
の。しきのまをさん
問ことた、よし伝の学
いれ一。文さたえの級
にら高次章を。る学
答を山はに考高文級
えよさ一書え山章では
まくん高くなさを、
し読の山こがなん書、
よん考さとらく学

Handwriting practice grid with a sample text area and a small illustration of a boy.

書○げに○考○へ
く六て聞一え一
こ十書い高た件
と字くた山こて
。以ここさとわ
上ととんをり
、。かの書遊
百ら取くび
字言材こ
以葉メとの
内やモ。よ
に文一さ
まをのにつ
と取下つ
めり級
て上生
て

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	60.8	56.6
無解答率	4.2	4.9

【正答例】

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうであれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができることだと思います。

◇松阪市児童の解答状況及び改善方策

本問題の平均正答率は、全国平均正答率を上回った。一方で、誤答した児童のうち、資料の言葉や文を取り上げているが、考えたことを書いていない児童の割合が高かった。

学習指導に当たっては、文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げること考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。その際には、取り上げた事実と考えとの関係を明確にしたり、文末表現に注目して事実と考えを混同して書いていないかを確かめたりする場面を設定することも大切である。

○小学校

算数 3 (3) 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く

◇出題の趣旨

球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。

◇学習指導要領の内容

〔第3学年〕B図形

(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ウ) 円について、中心、半径、直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。

〔第5学年〕B図形

(4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

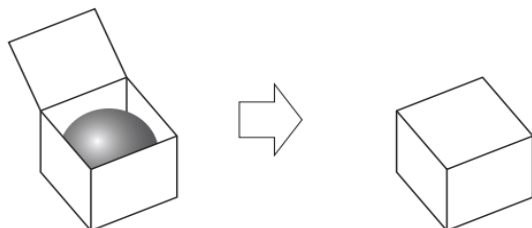
(イ) 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

(3) 直径22cmの球の形をしたボールがあります。

このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	33.0	36.5
無解答率	8.3	9.8

【正答】 $22 \times 22 \times 22$

◇松阪市児童の解答状況及び改善方策

誤答した児童のうち、「 22×3.14 」と回答した児童の割合が高かった。この場合、球の直径の長さや円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。

学習指導に当たっては、身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。例えば、本設問であれば、立方体を真上や真横から観察するなどして、球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径は球の直径と等しく、立方体の一辺と等しいことを理解できるようにすることが大切である。

○中学校

国語 1 四 話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く

◇出題の趣旨

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

◇学習指導要領の内容 「第1学年」 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること
《話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）》

藤田さん: 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん: たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは思っていませんか。

藤田さん: そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。(図)のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

今井さん: 私は、図書館や書店で本を選んでます。読みたい本を見付けるとは時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がると感じています。

藤田さん: 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。

山岡さん: そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん: そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことに似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん: フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

(図) フィルターバブル現象
自分の好む情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

(文部科学省ウェブページによる。一部改変。)

《解説》
インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。
例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん: 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん: 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん: 《解説》の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん: 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

【フィルターバブル現象の資料】 【話し合いの一部】

いい「でタ
。のフ話ー山
ーイ題バ岡
部ルをブさ
」タ決ルん
をーめ現た
読バて象ち
んブ話のは
でルし資、
、現合料国
あ象っ語
との資いをも
の問料ま時間
い」すにに
にと。「フ
答「次グ
え話のイル
なしール
さ合プ

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	39.8	44.7
無解答率	8.4	9.9

【正答例】

今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出合いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

条件1
フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2
【話し合いの一部】の誰の発言と結び付けるかが分かるように書くこと。

四【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

誤答した生徒には、自分の考えが話し合いの話題や発言の内容とどのように結びついているのか、つながりが分かるようにまとめることに課題があると考えられる。

学習指導に当たっては、話し合いの中で、話題を意識しながら経過を捉えて話したり聞いたりすることや、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。例えば、グループで話題を決めて話し合い、話し合ったことを基にして自分の考えをまとめる活動が考えられる。その際、話し合いの序盤で話題について共通理解したり、発言がある程度出された段階でそれらの内容を整理したりするなど、小学校で学習したことを生かして建設的に話し合うことが重要である。

○中学校

数学 8 (2) 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する

◇出題の趣旨

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

◇学習指導要領の内容 〔第2学年〕C関数

(1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、下のようなグラフをかきました。

(2) 右のストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。

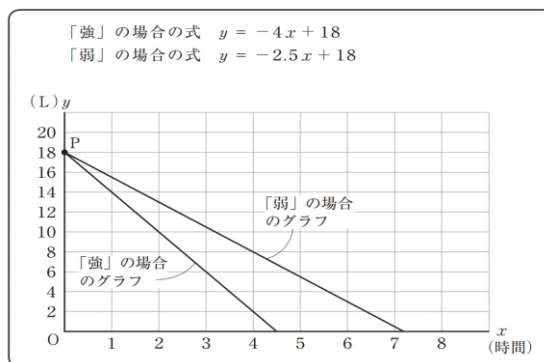
ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式

$$y = -2.5x + 18$$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

ストーブの使用時間と灯油の残量



【正答例】

〈アを選択した場合〉

・「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

〈イを選択した場合〉

・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求める。

・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y 座標が0のときの2点間の距離を読み取る。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	14.1	17.1
無解答率	14.5	16.4

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。誤答の割合としては、ストーブの使用時間と灯油の残量のグラフから、灯油を使い切るまでのおよその使用時間について読み取っているが、「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を数学的に表現できなかった生徒が多かった。思考の過程を的確に表現したり、考えたことを数学的な表現を用いて説明したりすることに課題があると考えられる。

学習指導に当たっては、様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが重要である。その際、数学を活用する方法を説明できるように指導することが大切である。

(2) 質問調査

I <児童生徒質問調査>

① 基本的な生活習慣等

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	78.8	82.1	82.9	79.3	81.7	80.7
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.0	91.6	91.6	93.5	93.1	92.5
(4)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く) ※1時間以上	15.3	17.9	19.8	20.8	17.4	16.6
(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか ※1時間以内(R4と比較)	20.8	23.4	25.7	24.2	26.9	28.9
(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか ※1時間以内(R4と比較)	45.1	47.4	49.0	15.7	17.4	19.9
(7)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか(R4と比較)	67.4	68.7	71.1	74.4	74.0	72.2

(数値は肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

「質問番号(2)」(以下質問番号のみ記載する)については、小中学校ともに前回調査結果と比べて改善傾向が見られるが、全国の割合は下回っている。(3)に対して、小中学校ともに90%以上の児童生徒が肯定的に回答しており、前回調査結果から改善傾向が見られる。一方で、(5)(6)に対して、1時間以内と回答した児童生徒は、全国の割合を下回っており、特に動画視聴をしている児童生徒の割合は、前回調査結果も下回っている。

② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(9)	自分には、よいところがあると思いますか	80.6	82.4	84.1	83.8	83.8	83.3
(10)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.4	90.6	89.9	91.7	91.4	90.4
(11)	将来の夢や目標を持っていますか	79.8	81.6	82.4	66.8	67.5	66.3
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	92.3	93.1	92.7	92.3	90.4	90.1
(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.7	97.1	96.7	97.5	96.4	95.7
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	63.6	65.9	67.1	72.6	69.7	67.5
(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	83.5	84.0	84.8	85.2	85.4	83.8
(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	72.1	74.5	75.8	76.8	77.6	76.2
(18)	友達関係に満足していますか	93.4	91.1	91.1	90.5	90.7	90.1
(19)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.0	92.1	91.7	90.4	90.6	89.8

(数値は肯定的な回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

中学校においては、上記で取り上げた全ての質問項目で、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国の割合を上回っており、前回調査結果と比べてもほとんどの質問において改善傾向が見られる。

(10)に対して、小中学校ともに全国の割合を上回っており、90%以上の児童生徒が肯定的に回答している。

(18)(19)に対して、小中学校ともに全国の割合を上回っており、前回調査結果と同等以上となっている。

③ 学習習慣、学習環境等

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか(新規)	75.2	80.2	80.7	80.7	80.5	78.6
(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) ※1時間以上	49.6	50.6	54.6	66.0	63.2	64.3
(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) ※1時間以上	38.8	40.4	48.6	51.5	55.6	63.0
(24)	新聞を読んでいますか ※週1回以上	8.4	10.5	11.6	6.4	7.7	7.3

(数値は肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

上記で取り上げた質問項目について、小学校では、肯定的に回答した児童の割合が、前回調査結果及び全国の割合を下回っている。(22)については、小中学校ともに全国の割合を大きく下回っている。

④ 地域や社会に関わる活動の状況等

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(25)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	80.9	83.8	83.5	77.9	77.7	76.1

(数値は肯定的な回答の割合)

(26)	質問事項	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)	
小学校		中学校	
家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	80.5	家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	88.8
家族と過ごしている	67.6	学校の部活動に参加している	74.5
友達と遊んでいる	61.4	家族と過ごしている	69.9
スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	43.9	友達と遊んでいる	66.4
家で勉強や読書をしている	41.8	学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	39.7
習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	39.6	家で勉強や読書をしている	37.5
学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	24.2	スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	27.1
放課後子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している	6.1	習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	24.9
地域の活動に参加している	4.8	地域の活動に参加している	3.1

(数値は回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

地域や社会に関わる質問項目について、小学校においては、肯定的に回答した児童の割合が、全国の割合を下回っているものの、小中学校ともに前回調査結果と比べて改善傾向が見られる。

⑤ ICTを活用した学習状況

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(27)	これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※週1回以上	85.5	87.6	85.5	96.7	94.6	89.0
(28-1)	ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる(新規)	85.0	85.6	85.5	88.5	83.5	80.2
(28-2)	ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる(新規)	92.4	92.0	92.1	96.9	95.0	93.9
(28-5)	ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる(新規)	77.4	78.9	79.2	87.0	81.4	77.7
(28-6)	ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる(新規)	88.2	87.2	86.1	92.8	89.3	86.2
(28-7)	ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる(新規)	89.7	88.4	87.1	91.8	87.9	85.2

(数値は肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

中学校においては、上記で取り上げた全ての質問項目について、肯定的に回答した生徒の割合が、全国の割合を上回っている。また、(28-2)(28-6)(28-7)については、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が全国の割合を上回っている。

⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(29)	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	63.1	64.7	67.6	65.1	62.9	64.8
(30)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	77.0	81.3	81.9	81.3	82.4	80.3
(31)	これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	72.4	76.9	79.6	74.8	74.6	75.4
(32)	これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	81.4	83.7	84.3	81.1	82.5	80.9
(33)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか(新規)	84.8	86.0	86.3	85.7	86.9	86.1
(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.0	80.9	80.8	79.8	79.2	77.9
(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか(新規)	82.7	84.0	83.7	81.1	80.7	79.0
(36)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	90.4	89.4	87.9	84.4	86.3	84.9
(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか(新規)	90.7	91.6	91.6	91.8	92.7	92.3

(数値は肯定的な回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(29)(30)(31)については、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が、前回調査結果を上回っている。中学校においては、複数の質問項目で全国の割合を上回り、前回調査結果と比べて改善傾向が見られる。

⑦ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(38)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	69.6	74.7	81.3	80.3	77.0	82.2
(39)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	79.8	82.2	84.2	85.5	86.4	86.3
(40)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	78.1	81.3	82.5	81.0	81.4	80.6
(41)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	86.5	86.9	88.2	92.8	91.8	91.7

(数値は肯定的な回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

上記の質問項目について、肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国の割合を下回っているものが多いが、全て前回調査結果を上回っており、中学校においては、(40) (41)に対する肯定的な回答の割合が、全国の割合を上回っている。

⑧ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語・算数・数学・理科)

* : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

 : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(42)	国語の勉強は好きですか	54.0	57.7	62.0	50.7	64.3	64.3
(43)	国語の勉強は大切だと思いますか	94.5	94.4	94.5	94.5	94.6	93.9
(44)	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.9	87.1	86.3	81.8	86.1	82.7
(45)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.4	93.3	93.2	91.1	91.9	90.6
(50)	算数(数学)の勉強は好きですか	60.7	61.9	61.0	56.6	59.4	57.2
(51)	算数(数学)の勉強は大切だと思いますか	95.1	95.0	94.6	89.0	89.3	87.2
(52)	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか	83.9	84.8	82.1	78.3	79.8	75.7
(53)	算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.6	94.7	94.1	81.7	81.6	78.5
(58)	理科の勉強は好きですか(R4と比較)	78.8	80.9	83.6	60.0	67.2	68.3

(数値は肯定的な回答の割合)

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(42) (50) (58)について、肯定的に回答した児童生徒の割合が、小中学校ともに全国の割合を下回っているが、「算数・数学」については、小中学校ともに前回調査結果と比べて改善傾向が見られる。

(43) (51)については、小学校では国語が全国と同等、算数が全国の割合を上回っている。中学校では、国語・数学ともに、全国の割合と前回調査結果を上回っている。

(44) (53)については、小学校では算数において、中学校では国語・数学ともに全国の割合を上回っている。

Ⅱ＜学校質問調査＞

学習指導要領では、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を重視し、その理念を前文に明示している。

この理念の実現に向けては、義務教育9年間を通して、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくことが重要であることから、以下の質問項目を取り上げた。

① 校内体制及び学校間連携等

* ☐ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

☐ : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(12)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100	97.9	97.3	100	95.9	94.0
(13)	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100	97.1	97.0	90.9	96.6	96.5
(14)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100	98.8	97.3	90.9	92.0	91.8
(小68) (中72)	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	77.8	75.0	64.0	81.9	75.9	69.0

(数値は肯定的な回答の割合)

＜松阪市全体の特徴的な傾向＞

上記で取り上げた全ての質問項目について、小学校においては、肯定的に回答した学校の割合が全国の割合を上回り、前回調査結果と比べて改善傾向が見られる。中学校においても(12)(中72)については、全国の割合を上回っている。

② 家庭や地域との連携等

* ☐ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの

☐ : 全国の割合を上回っているもの

番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
(小69) (中73)	職場見学を行っていますか(職場体験活動を何日程度行いましたか) ※1日以上	55.6	46.5	43.2	54.6	86.5	76.1
(小70) (中74)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	94.5	94.4	88.9	81.9	87.3	84.1
(小71) (中75)	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100	98.3	96.1	90.9	91.3	91.9
(小72) (中76)	前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか(新規)	91.6	90.3	89.7	81.8	85.2	84.0
(小73) (中77)	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか	91.7	90.5	87.8	90.9	87.9	82.8

(数値は肯定的な回答の割合、又は※印の頻度等に回答した割合)

＜松阪市全体の特徴的な傾向＞

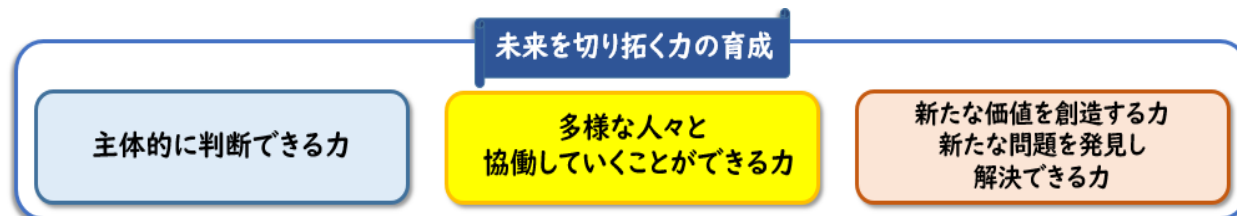
小学校においては、上記で取り上げた全ての質問項目について、肯定的に回答した学校の割合が、全国の割合を上回っている。

(小73)(中77)については、小中学校ともに全国の割合を上回っている。

3 成果につながったと考えられる松阪市の取組

(1) 基本的な考え方

文部科学省では、これからの予測困難な社会を生き抜く子どもたちに育てたい力として、教室の中だけで学習を終えるのではなく、自ら課題を見つけ、自ら考え、判断して行動し、仲間とともにによりよい社会や人生を切り拓く力を掲げている。令和5年度、松阪市においては、学習指導要領の着実な実施とGIGAスクール構想に係るICT環境整備を踏まえ、子どもたちに未来社会を切り拓くための資質・能力の一層確実な育成を図る取組を各学校で行った。教育活動の質を高めるためには、子どもたちの学びの姿や教育活動をふり振り返り、改善・充実を図っていくことが大切である。



(2) 松阪市教育委員会の具体的な取組

①「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」を活用した学校・家庭・地域が一体となった教育体制の構築

子どもたちに、自らの可能性を発揮し、他者との絆を大切にしながら、失敗を恐れず夢と志をもって挑戦し、豊かな未来を切り拓く力を育成するため、「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」を制定し、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、教育力を高めながら、一体となって子どもたちに「未来を切り拓く力」を育む取組を進める。



【生活習慣を確立する】

【主体的に学ぶ】

【説明力を伸ばす】

【考えを深める】

【学んだことを活用する】

②「主体的・対話的で深い学び」の視点等からの授業改善

「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」も大切にした授業づくりを進める。

- 「未来を切り拓く力」の育成に向けた授業改善
- 教科等の特質に応じた見方・考え方を重視した授業づくり
- 総合的な学習の時間等における探究的な学習の推進
- ICT機器の活用推進による、個別最適な学習と協働的な学習の推進

③カリキュラム・マネジメントの確立

学校の教育活動を常に検証し、見直しを図り、学習の成果を高めるため、教育活動の改善を図る。

- 各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
- 各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながるPDCAサイクルの確立
- 地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用
- 学校間による取組の共有（小中連携を含む）

4 調査結果の分析

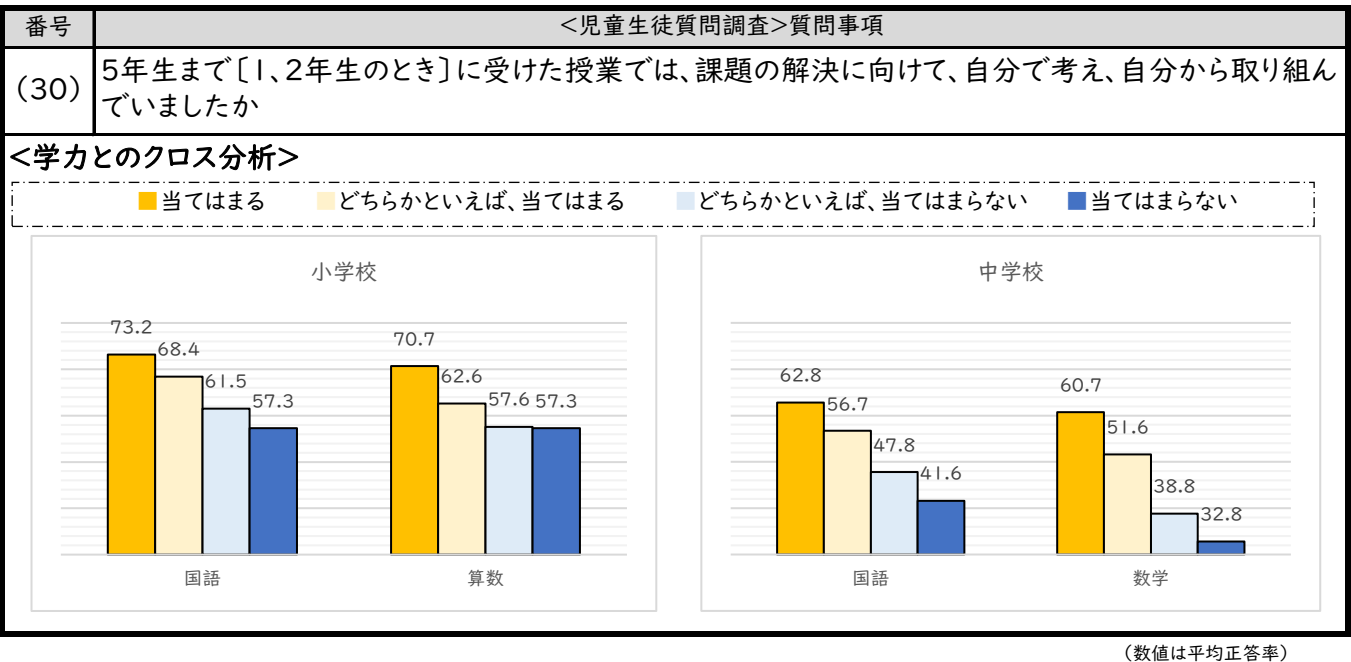
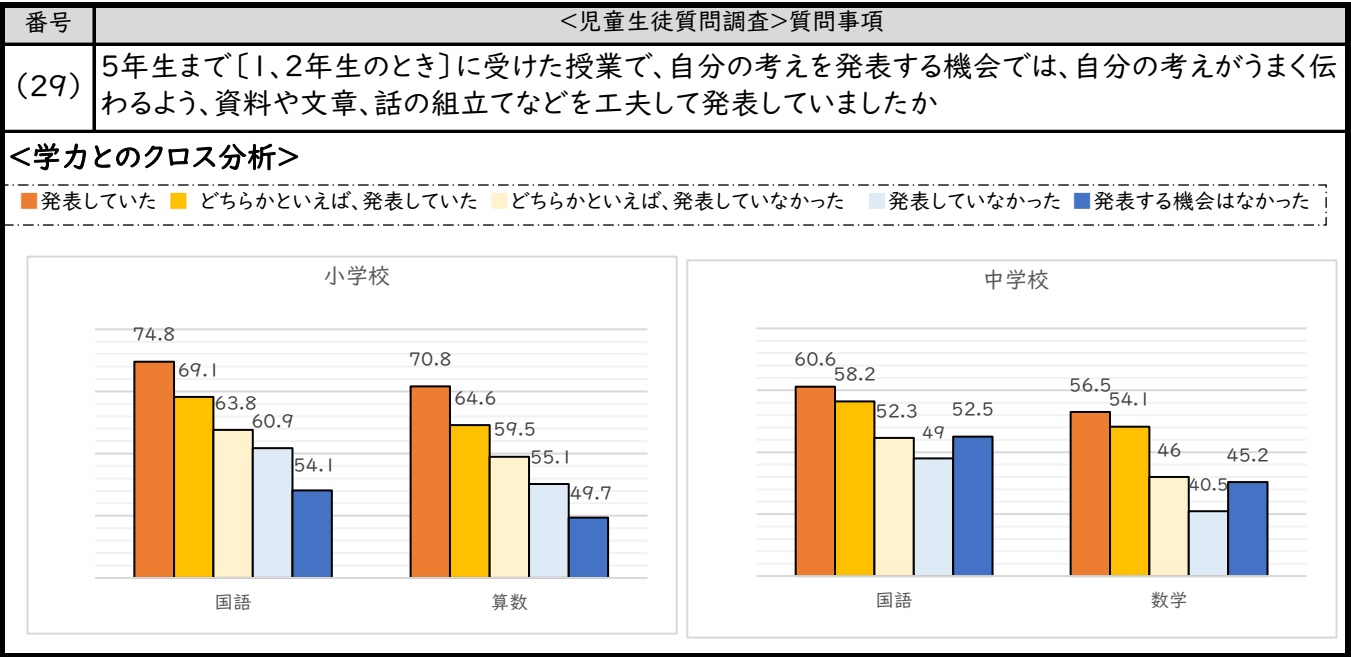
児童生徒質問調査と学校質問調査、教科に関する調査に係る分析

児童生徒質問調査の結果と教科に関する調査結果からクロス分析を加え、学力との相関関係について考察した。以下は、児童生徒質問調査に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られた質問項目の中から、主な質問項目を抜粋して掲載している。関連する学校質問調査についても考察した。

また、学力との相関関係だけでなく、異なる児童生徒質問調査の結果どうしについてクロス分析を加え、関連する項目についても考察した。

(1) 主体的・対話的で深い学びの創造

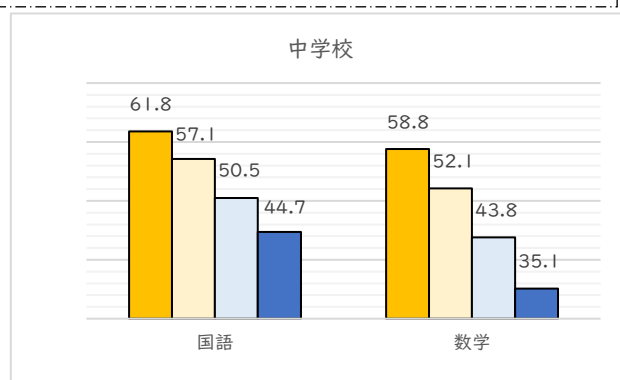
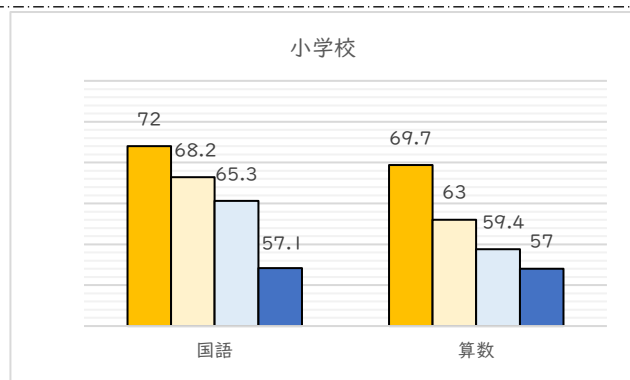
① 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況



番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(31)	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

＜学力とのクロス分析＞

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



(数値は平均正答率)

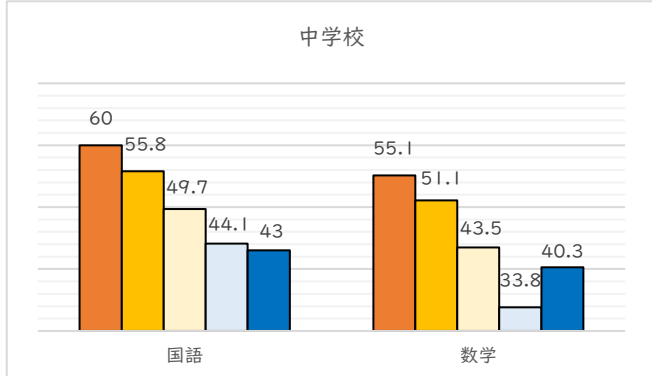
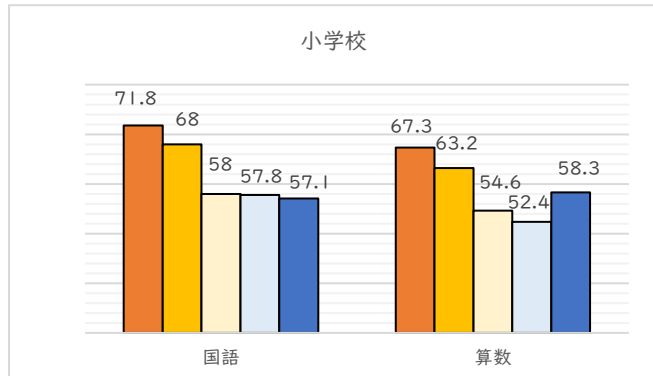
番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(35)	前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	88.9	72.8

(数値は肯定的回答の割合)

番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(33)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか(新規)

＜学力とのクロス分析＞

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 話し合う活動を行っていない



(数値は平均正答率)

番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(31)	前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	94.4	100
(32)	前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	94.4	100

(数値は肯定的回答の割合)

主体的・対話的で深い学びに関する上記の児童生徒質問調査の(29)(30)(31)(33)に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られる。学校質問調査の(31)(32)からは、各小中学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図られている様子がうかがえる。

一方で、学校質問調査の(35)については、教科等横断的な視点からの授業改善や、既習事項を生かせるような授業展開が必要であることがうかがえることから、今後も、上記質問項目を意識した学習課題や活動、教師の出場・発問等の在り方等について研究を進めていくことは重要であると考えます。

番号	<児童生徒質問調査> 質問事項	
(小47)	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか	(中47) 国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか
<学力とのクロス分析>		
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない 小学校 国語 中学校 国語		

(数値は平均正答率)

番号	<児童生徒質問調査> 質問事項																					
(56)	算数(数学)の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか																					
<学力とのクロス分析>																						
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない 小学校 <table><thead><tr><th>回答</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>当てはまる</td><td>70.2</td></tr><tr><td>どちらかといえば、当てはまる</td><td>62.7</td></tr><tr><td>どちらかといえば、当てはまらない</td><td>59.6</td></tr><tr><td>当てはまらない</td><td>56.8</td></tr></tbody></table> 算数 中学校 <table><thead><tr><th>回答</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>当てはまる</td><td>58.9</td></tr><tr><td>どちらかといえば、当てはまる</td><td>53</td></tr><tr><td>どちらかといえば、当てはまらない</td><td>49.9</td></tr><tr><td>当てはまらない</td><td>44.2</td></tr></tbody></table> 数学			回答	割合	当てはまる	70.2	どちらかといえば、当てはまる	62.7	どちらかといえば、当てはまらない	59.6	当てはまらない	56.8	回答	割合	当てはまる	58.9	どちらかといえば、当てはまる	53	どちらかといえば、当てはまらない	49.9	当てはまらない	44.2
回答	割合																					
当てはまる	70.2																					
どちらかといえば、当てはまる	62.7																					
どちらかといえば、当てはまらない	59.6																					
当てはまらない	56.8																					
回答	割合																					
当てはまる	58.9																					
どちらかといえば、当てはまる	53																					
どちらかといえば、当てはまらない	49.9																					
当てはまらない	44.2																					

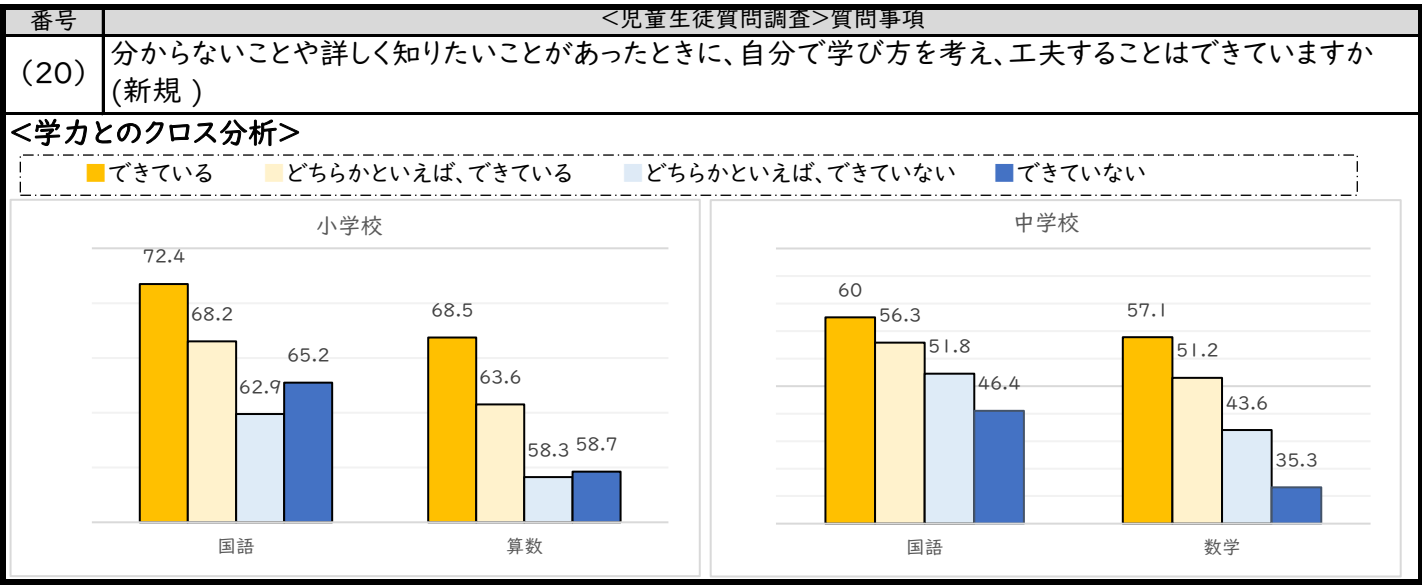
(数値は平均正答率)

番号	＜児童生徒質問調査＞ 質問事項													
(60)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか													
＜前回調査結果との比較＞														
小学校 <table border="1"><thead><tr><th>調査年度</th><th>松阪市</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4</td><td>76.5</td></tr><tr><td>R6</td><td>82.6</td></tr></tbody></table> 中学校 <table border="1"><thead><tr><th>調査年度</th><th>松阪市</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4</td><td>62.2</td></tr><tr><td>R6</td><td>64.7</td></tr></tbody></table>			調査年度	松阪市	R4	76.5	R6	82.6	調査年度	松阪市	R4	62.2	R6	64.7
調査年度	松阪市													
R4	76.5													
R6	82.6													
調査年度	松阪市													
R4	62.2													
R6	64.7													

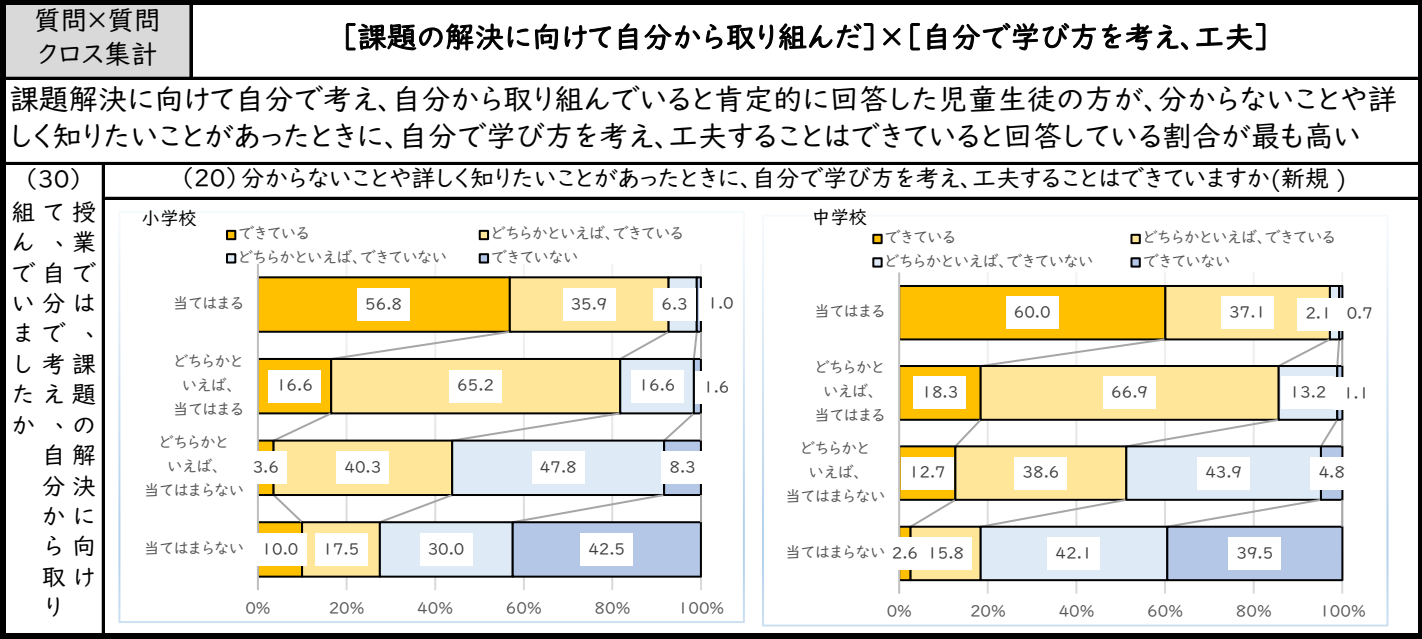
(数値は肯定的回答の割合)

教科に関する児童生徒質問調査の(小47)(中47)(56)に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られる。

教科に関する調査の国語では、話し合いの場面での発言や文章から、目的に応じて必要な情報を整理し、自分の考えを工夫してまとめることができるかを問う問題が出題されたことから、授業において、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫することが重要である。算数(数学)では、事象から、算数(数学)の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を重視した問題が出題されたことから、授業において、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要である。児童生徒の主体性を高める課題を設定し、多様な考えを出し合い、よりよい解決方法について考えるよう広げ深める発問、調整・支援が必要である。理科については、(60)に対する肯定的回答の割合については、令和4年度調査結果と比べて、改善傾向が見られる。引き続き、予想を基に観察や実験などを行い、その結果を整理し、結論を導き出すといった問題解決の過程を意識した授業展開が必要である。



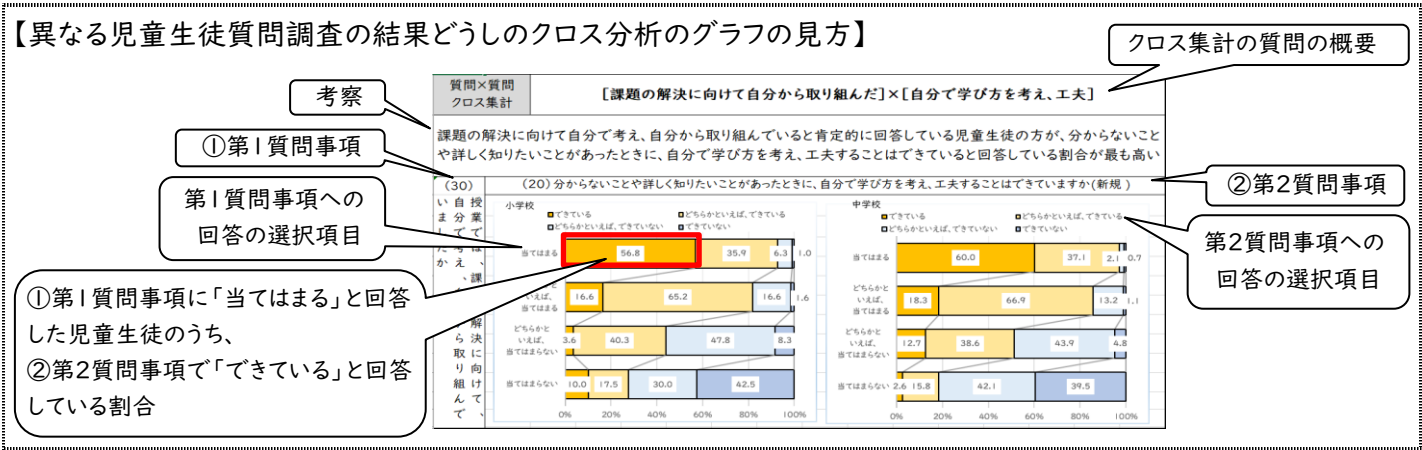
(数値は平均正答率)



(数値は回答の割合)

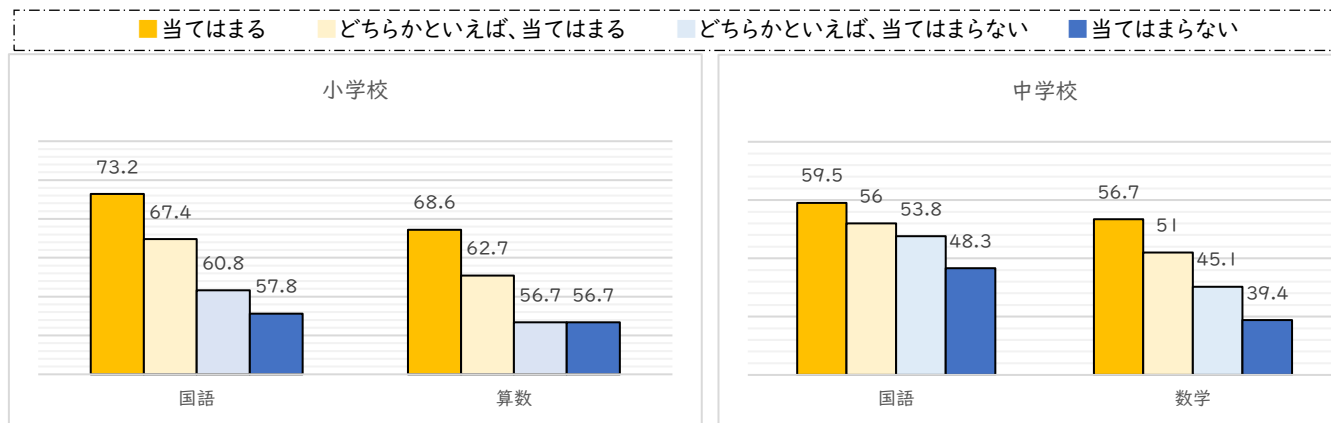
主体的な学び方に関する児童生徒質問調査の(20)に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られる。

異なる児童生徒質問調査の結果どうしにおけるクロス集計から、児童生徒が主体性を高められるよう授業改善を進めることが重要であることがわかる。また、児童生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、活動を工夫することや、授業内容と家庭学習を連動させたり、学校と家庭が連携したりすることも重要である。



番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(32)	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

＜学力とのクロス分析＞



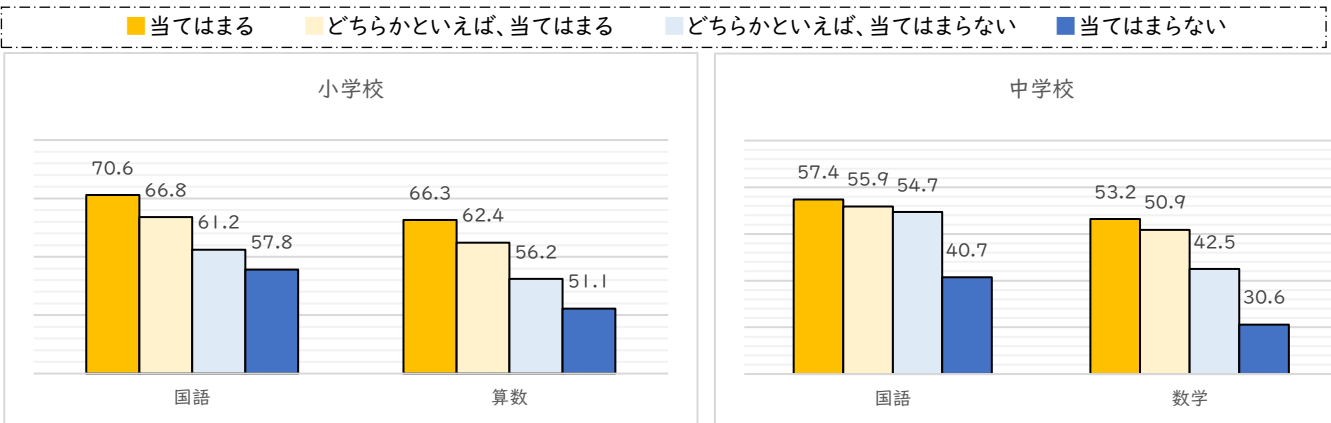
(数値は平均正答率)

番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(30)	学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	91.7	100

(数値は肯定的回答の割合)

番号	＜児童生徒質問調査＞質問事項
(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか(新規)

＜学力とのクロス分析＞

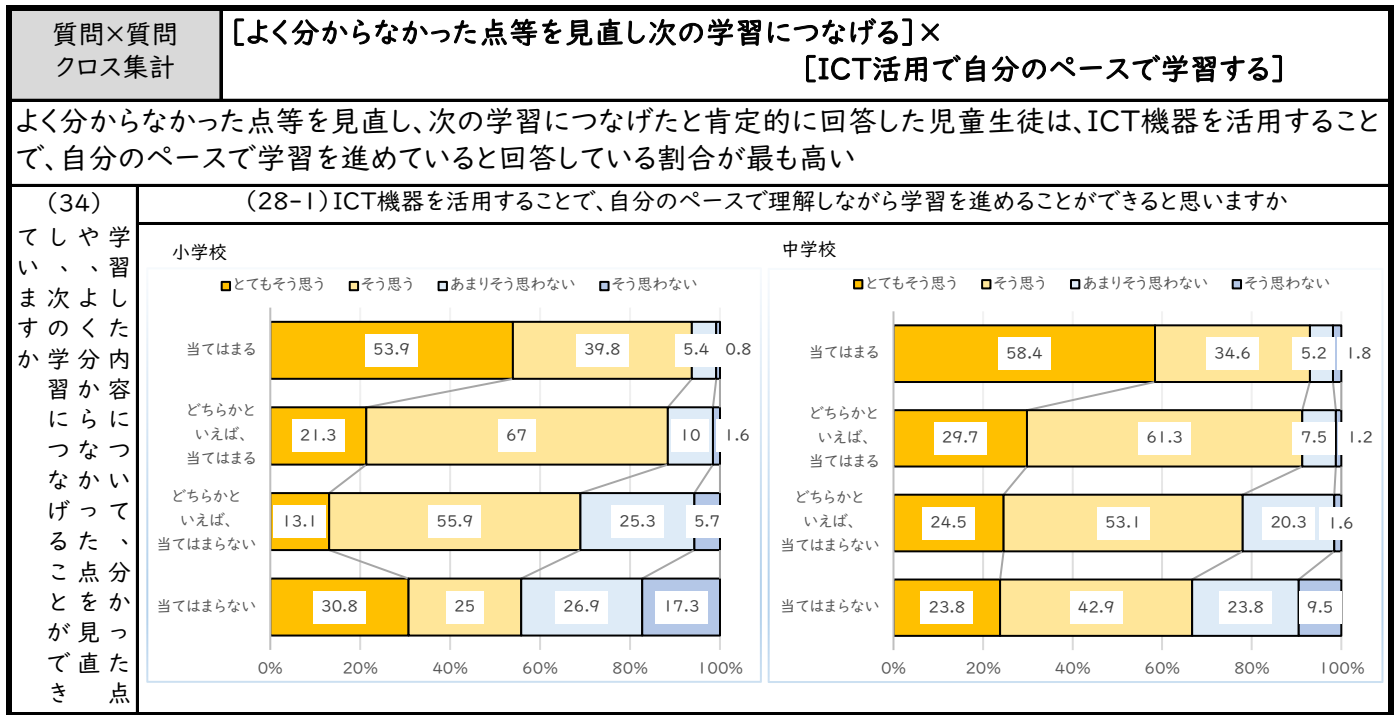


(数値は平均正答率)

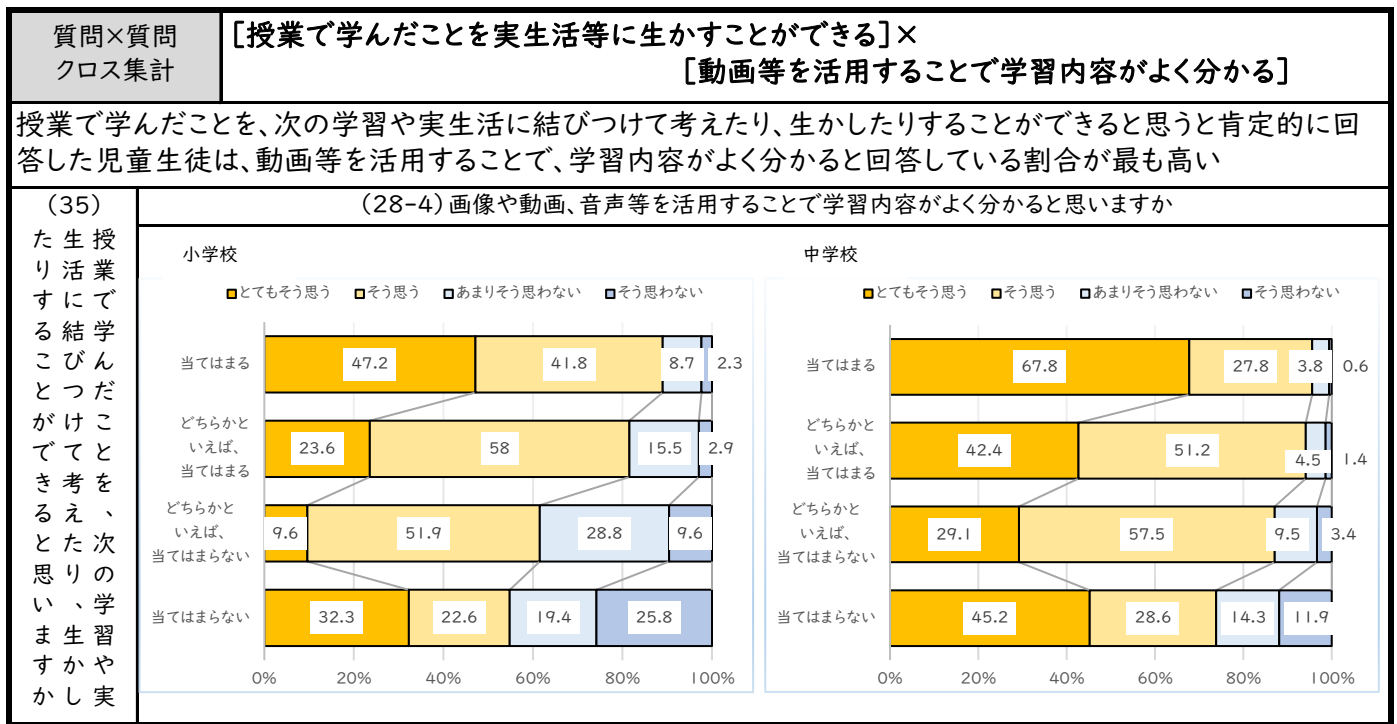
番号	＜学校質問調査＞質問事項	小学校	中学校
(31)	学習指導において、児童生徒がそれぞれの良さを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	94.4	100

(数値は肯定的回答の割合)

② ICTを活用した学習状況



(数値は回答の割合)



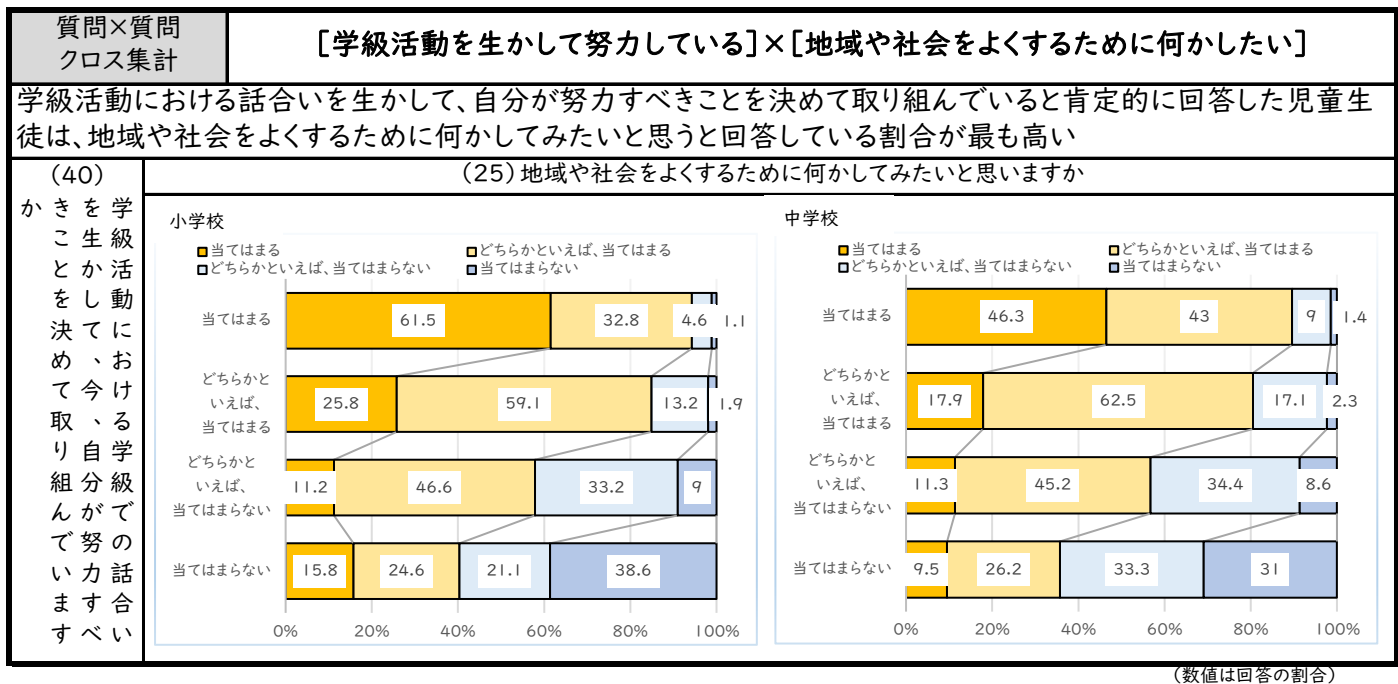
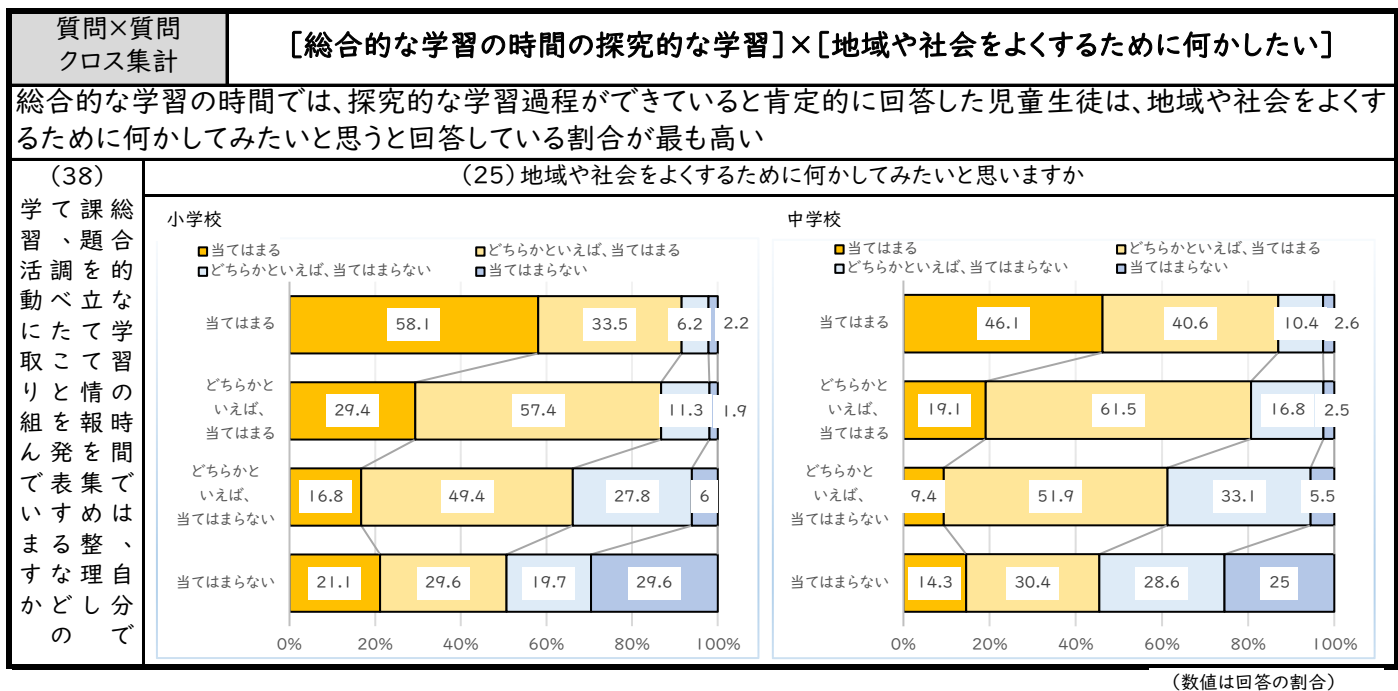
(数値は回答の割合)

番号	<学校質問調査>質問事項	小学校	中学校
(小56) (中60)	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	97.2	100
(小64) (中68)	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	100	100

(数値は肯定的回答の割合)

(2) カリキュラム・マネジメントの確立

① 児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する状況

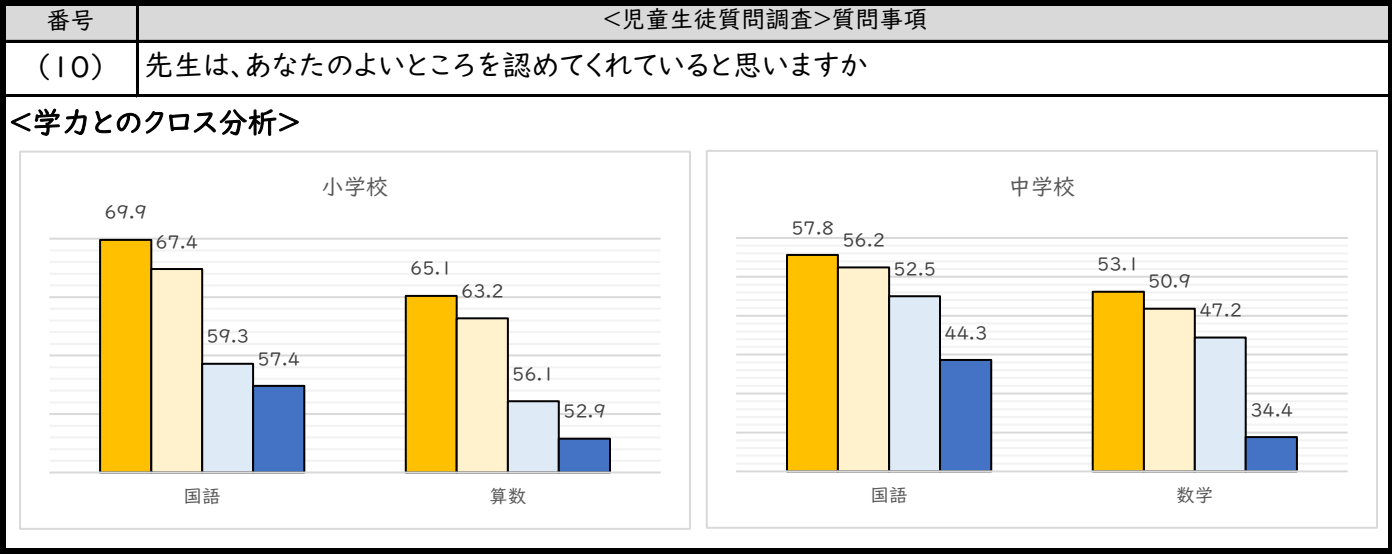


番号	<学校質問調査>質問事項	小学校	中学校
(36)	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	86.1	91.0
(38)	学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	97.2	100

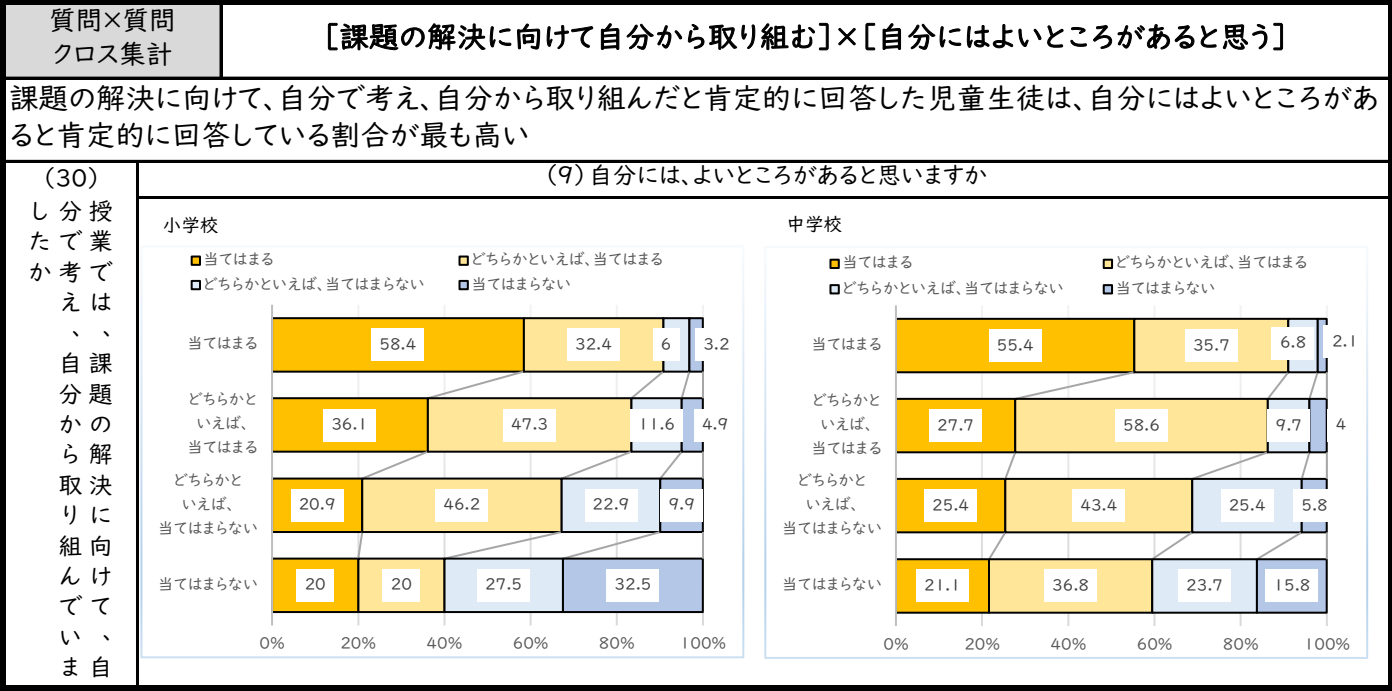
(数値は肯定的回答の割合)

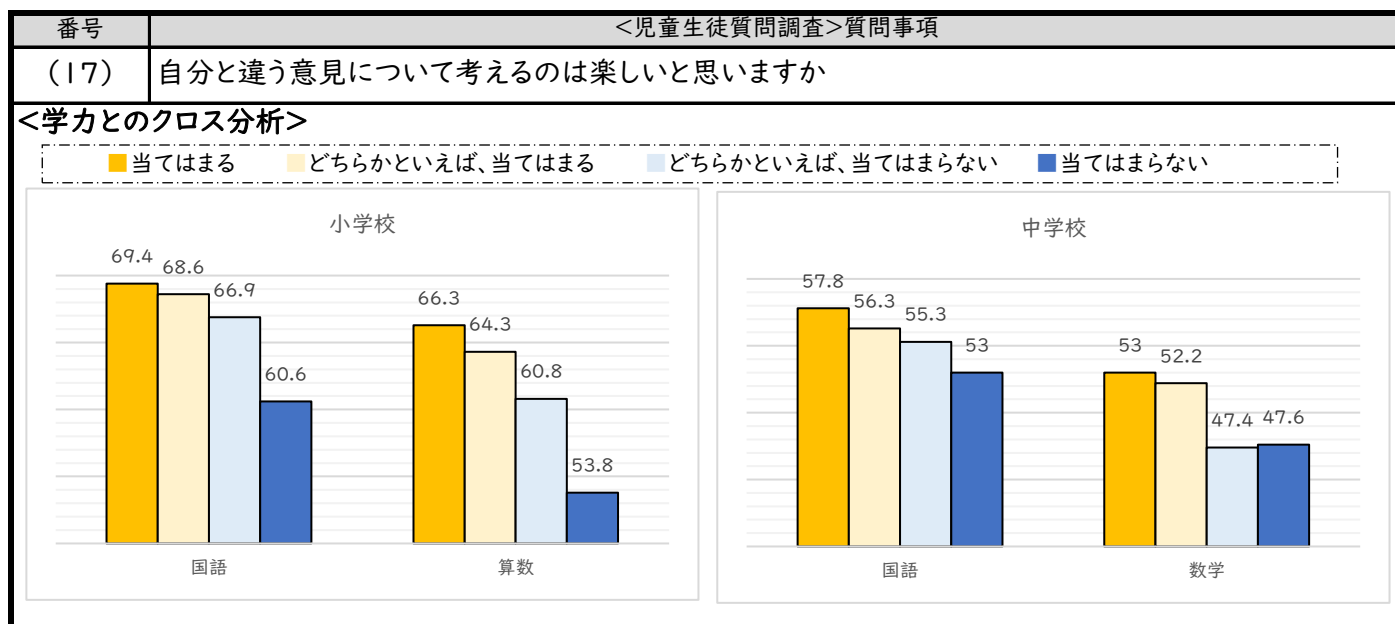
総合的な学習の時間や学級活動に関する児童生徒質問調査結果と地域参画に関する児童生徒質問調査結果のクロス集計を踏まえると、総合的な学習の時間及び学級活動での取組は、児童生徒の「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という考えの形成に影響を与えている可能性があることから、これらの取組を充実することは、持続可能な社会の創り手の育成を図るうえで重要である。

また、学校質問調査の(36)から、総合的な学習の時間における探究的な学習が、特に中学校において推進されていることや、(38)から、小中学校ともに学級活動が充実していることがうかがえる。このことから、課題を見だし、解決するための方法や内容を話し合い、一人一人が自己の課題の解決方法について意思決定し、よりよい生活や人間関係を築き、学校生活の充実と向上を図る必要がある。

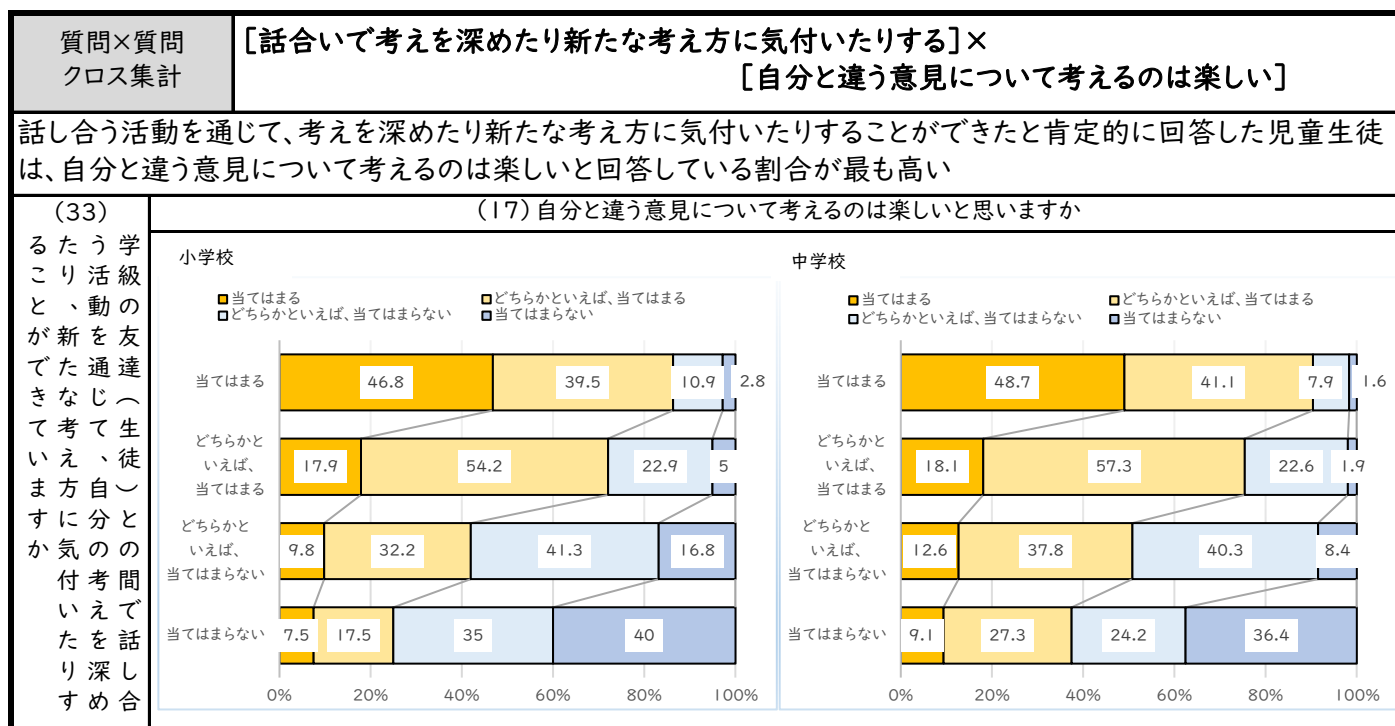


(数値は平均正答率)





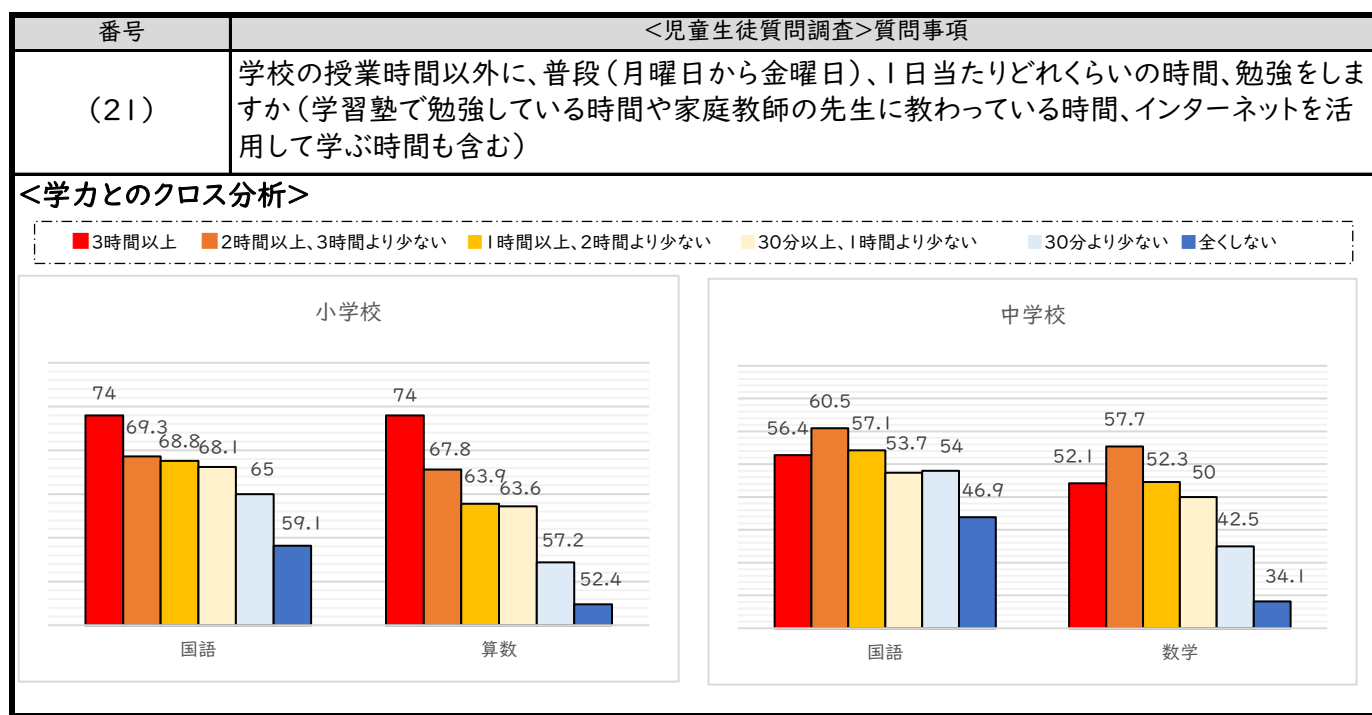
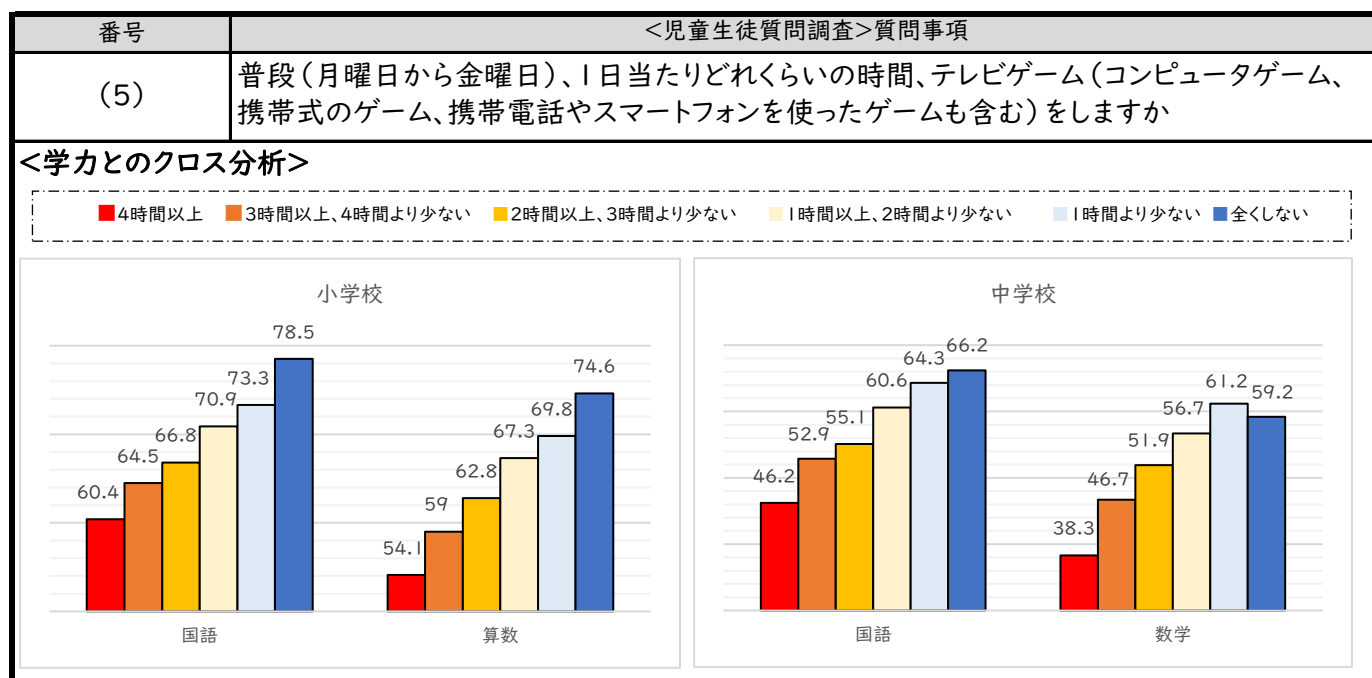
(数値は平均正答率)



(数値は回答の割合)

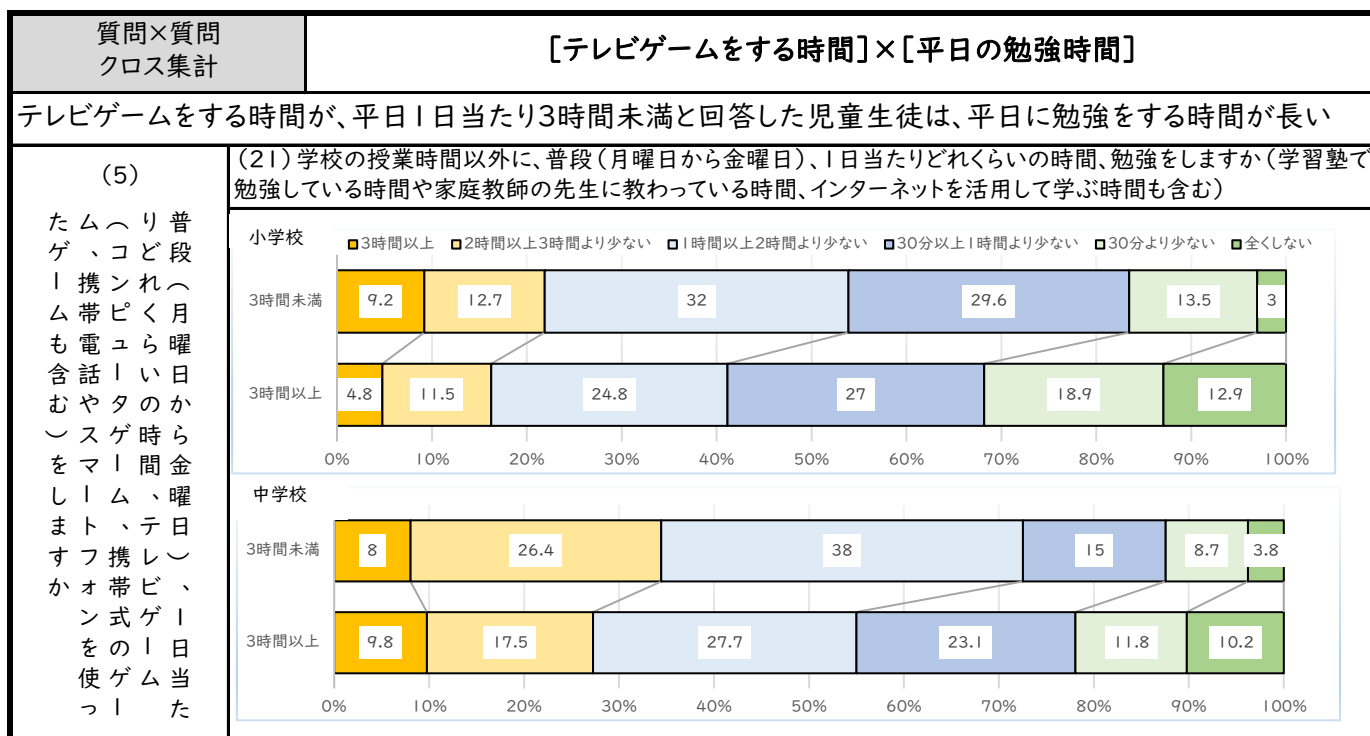
自己有用感等に関する児童生徒質問調査の(17)に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られる。さらに、異なる児童生徒質問調査の結果どうしのクロス集計を踏まえると、「話合いで考えを深めたり新たな考え方に気付いたりする」に対する回答と、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に対する回答との間に相関が見られる。このことから、話し合う活動を、考えの共有で終わらせないよう、広げ深める発問や調整・支援をすることが必要である。

② 学校・家庭・地域の一体的な取組に関する状況

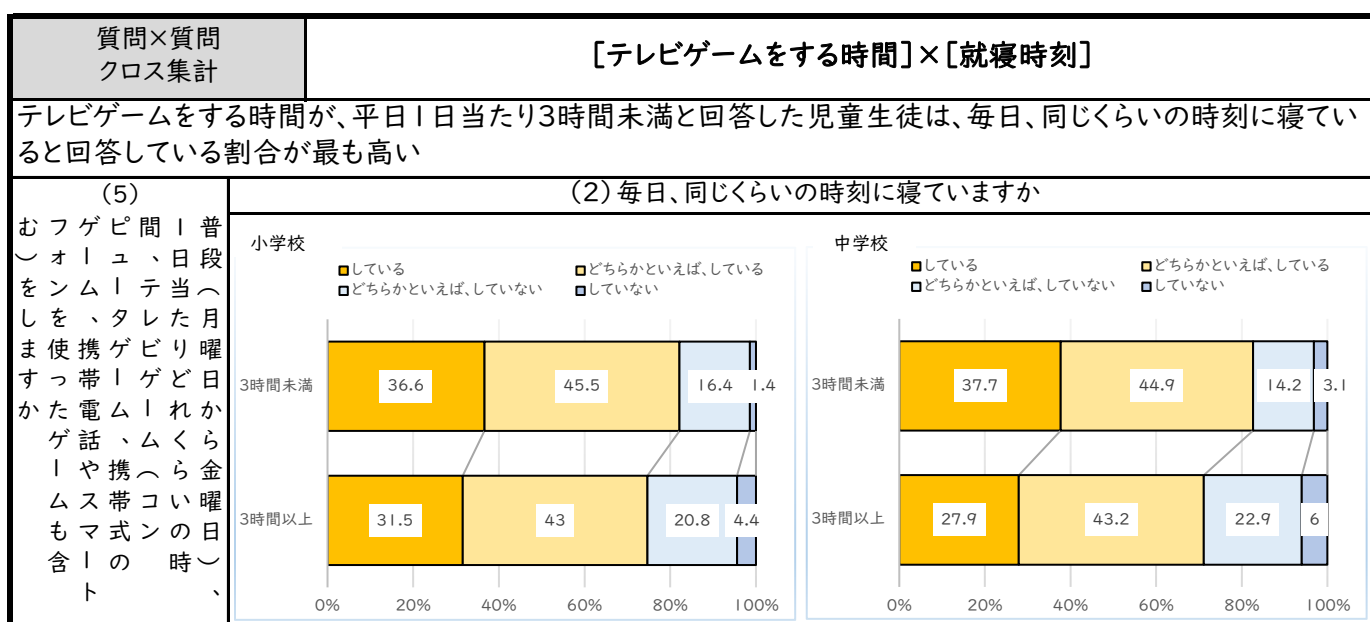


基本的な生活習慣等に関する児童生徒質問調査の(5)に「テレビゲームの時間が短い」、(21)に「普段の勉強時間が長い」と回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られる。

今後も、学校と家庭が連携を深めるとともに、家庭において、学習の計画を一緒に考えたり、1人1台端末を活用し、一緒に地域での探究学習に出かけたりして、家庭学習の習慣づくりすることは、児童生徒の学びを広げることにつながると考える。



(数値は回答の割合)



(数値は回答の割合)

基本的な生活習慣等に関する異なる児童生徒質問調査の結果どうしのクロス集計では、普段テレビゲームをする時間が1日当たり3時間以上であるグループは、1日当たり3時間未満のグループより勉強時間が短く、毎日同じくらいの時刻に寝ていないという傾向が見られる。

このことから、家庭において、児童生徒が、テレビゲームをしている時間を減らし、勉強時間や家族と語らう時間、運動や読書などをする習慣をつくることが重要である。家族の触れ合いは、児童生徒が基本的な生活習慣や思いやりの心、社会的マナー等を育む大切な時間である。

5 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の取組

(1) 松阪市教育委員会の施策の充実

- 学力向上推進協議会の設置
 - ・ 教育ビジョンの実現に係る方策等の立案及び成果等の検証
- 教育イノベーションプロジェクトの推進
 - ・ 現代的諸課題に対応して求められる資質・能力や学習の基盤となる資質・能力（言語能力・情報活用能力・問題発見・解決能力等）の育成に向けた実践・研究
 - ・ ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の充実
- 「未来を切り拓く力」育成モデル校区による取組の充実
 - ・ 中学校区の豊かな自然や歴史・文化、産業等の学びを介し、夢を育み未来を切り拓く力を、学校・家庭・地域が一体となって育む研究及び研究成果の還流
- 松阪市標準学力調査の活用
 - ・ 児童生徒の課題を早期に把握し、一人ひとりの子どもに応じたきめ細やかな指導を進めるための支援
- 教務担当者会議、教科担当者会議、研修担当者会議等の充実
 - ・ 指導と評価の一体化の推進
- 学級経営マイスター事業・スリンプルプログラムの推進
 - ・ 非認知能力（自己肯定感・自己有用感等）の育成に向けた取組の充実
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進
 - ・ 子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築

(2) 学校の実践の焦点化

- ① 「『主体的・対話的で深い学び』の視点等からの授業改善」に関して
 - 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - ・ 子どもたちが主体的に考え、伝え合い、広げ深めることができる学習展開の工夫
 - ・ 教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることができる学習活動の設定
 - 総合的な学習の時間等における探究的な学習・教科等横断的な学習の充実
 - 授業・家庭学習におけるICTの効果的な活用の研究・推進
- ② 「カリキュラム・マネジメントの確立」に関して
 - 学校の教育目標を踏まえた各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
 - 教育課程の実施状況の改善を図るためのPDCAサイクルの確立
 - 教育内容や教育活動に必要な人的・物的な体制の確保
 - ・ 各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
 - ・ 学校全体における言語活動を意識した教育課程の工夫
 - ・ 教育課程の趣旨について家庭・地域と共有
 - PDCAサイクルの確立
 - ・ 各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながるPDCAサイクルの確立
 - 人的・物的な体制の確保
 - ・ 地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用
 - コミュニティ・スクール導入と地域学校協働活動の一体的な取組の推進
 - ・ 子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築